



吉子川



令和7年11月20日(木)
学校だより NO. 49
中島村立吉子川小学校
発行責任者 校長 木戸美智子

【めざす児童像】

○あかるく たくましい子ども (体)
○やさしく おもいやりのある子ども (徳)
○めあてをもって がんばる子ども (知)

【よしコッピ】

吉子川小学校
のあやめの花に
住む小鳥の妖精

今月のいきいき中島っ子 学びの
十か条 (11月)
力を合わせてみんなで前進
仲間がいるから頑張れる

◇ 読書賞57名になりました! ~ 読破率 54.3% ~ ◇



このすてきな表情の5人を含めて、今年度の読書賞受賞者は57名になりました。読破率は54.3%。とうとう過半数を突破しました! この5人は、4年生と5年生です。いよいよ上級生からの達成者が出始めてきました。友達の頑張りに刺激を受けて、ここからギアを入れ替えて、達成者が増えていくことを期待しています。活字数、ページ数が多いので時間はかかると思っています。

千里の道も一歩から! ちりも積もれば山となる! 基本は、できるかできないかというより、やるかやらないか! 自分の好きな本を読むことも大事だけれども、みんなでやると決められたことは好き嫌いに関わらず頑張る! これは社会のルールでありマナーです! 頑張れ上級生! 学年ごとの達成率は次のとおりです。

1年生64.7%、2年生81.3%、3年生100%、4年生23.8%、5年生38.5%、6年生6.3%

◇ 非認知能力を鍛えよう Part2 ◇

前号と同じ話題です。非認知能力についてこんな説明もできます。非認知能力は、対応策について直ぐに人に頼ったり指示を求めたりせず、自分で考えることができることだ! つまり、生活の中での工夫だったりコミュニケーション能力や対応力だったりします。それには、幼い時にしっかり家庭や学校などで、勉強以外の学習を集団や友達と遊ぶことを通して学ぶことが大事なのです。成長すると共に学んでいった知識を生活に当てはめていく力があるから、困難に打ち勝てるのです。その練習は就学前に始まり、小学校の卒業までに習得しておくのが望ましいと感じています。集団で生活し、集団で遊ぶ中で、ルールやマナーを覚え、学んでいくのです。

連絡手段などツールが乏しい35年以上前の小学生は、友達との約束をしっかりと学校等で打ち合わせして帰りました。その活動が能動的活動であり、大事な学習なのです。失敗すれば会えなかったり、多少の喧嘩があったでしょう。しかし、現代はどうでしょうか? 連絡ツールの発展により大切な学習時間が奪われてきていると思います。リアルタイムで変更が可能になるし、様子がうかがえると思います。相手のことを考えて予測して事前に「こういう時はこうしよう」と考えなくなっています。便利なツールが無い時は、様々な状況を考え工夫したり綿密に打ち合わせを重ねて数日後の休日に遊んだりしました。デジタル社会の現代でもその大切な時間はあると思います。時代は変わっても子どものスキルレベルはさほど変わっていないと思います。しかし、もしかしたらその大切な時間を奪っているのは大人かもしれません。子どもの遊ぶ約束を親同士が代わりにメールなどで連絡を取り、〇〇時に〇〇の所に集合だよと大人が決め子どもに伝えるなど、子どもも違和感なくやってしまうやりとり。残念なことに子どもが話し合いや、思考するチャンスを奪っていることに気付いているのか少し不安になることもあります。もし、このような状況があれば、不便をあえて与え、「考える」ということをさせてみてはいかがでしょうか? 不便(ふべん)を不便(ふびん)と思わず、大切な学習と思ってあげてほしいです。

不便を知って体験する。不便を解決する練習をする。実はこれが非認知能力獲得と大きく関係します。